

さがみはら ぼらんていあ情報誌 季刊

わくわく



2018秋号

座談会 自閉症支援20年 これからを考える

文芸

訪問記

ふくしワンポイント情報

認定 特定非営利活動法人 相模原ボランティア協会

南海から

日向 尋

二千万年前 そこは海であった

地球の皮が 動くとともに

湧き上がる島は 北の列島に向かう

百万年前 より高みを目指して

むくむくと 隆起、隆起 岩は溶け

島は繋がり 半島となった

石廊崎に立つ

この大地が出てきた南海から

母なる風が吹いてくる

遠くに旅立った子を 連れ戻すべく

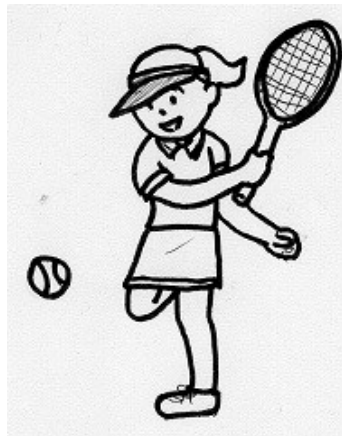
強く、しづきとともに 吹き上がる

岩は無言 波は跳ねる

足元はびくともしない



巻頭詩	日向 尋	1
もくじ		2
座談会 自閉症支援20年 これからを考える		3~9
ふくしワンポイント情報 社協「ふれあいサービス」		10~11
相模原の史跡——勝坂の有鹿谷		12
まんが「わくわくさん」		13
障がい者の詩		14~15
津久井高齢者支援センターを訪ねて		16~17
人物シリーズ 43:	富永 ナル子さん	18~19



手話シリーズ 37	20~21
パズルにチャレンジ	22~23
私が選んだハイキングコース (2020 東京オリンピック自転車競技コース~市内 を走るコースの一部歩いてみました~:西本	24~25
情報コーナー——市内のまちづくりセンター——覧	26
協会のPRページ	27
編集後記・奥付	28

自閉症支援20年 これからを考える

平成30年9月18日

(社福) 風の谷 やまびこ工房にて

中島博幸 やまびこ工房施設長

(風の谷常務理事)

薬師丸和浩 第2やまびこ工房

相談支援専門員(支援課長)

野田正太郎 ナウシカ担当支援員

田中咲祐紀 やまびこ工房支援員

司会／相模原ボランティア協会

西本 敬

司会／創立20周年を迎えられた社会福祉法人風の谷のやまびこ工房にお邪魔しています。では、皆様の自己紹介をお願いします。

中島／やまびこ工房の初代から現在までの施設長の中島です。事業所の管理者をしています。みんなからは「施設長」と言われていて、それで通じません。

薬師丸／所属としては第2やまびこ工房にありますが、支援活動ということ

でやまびこ工房、第2やまびこ工房の支援を担当しています。相談支援専門

員としても相談などを受けています。

野田／開所当初から勤務しています。

支援員として、やまびこ工房とグループホーム「ナウシカ」で働いています。

田中／普段はやまびこ工房で支援をして

います。皆さんに比べると短く、勤

続7年目になります。

◆自閉症支援の歴史を紐解く

司会／ありがとうございます。では、これらの施設がどんな経緯でつくられたのか、中島さんお願いします。

中島／当所は自閉症の支援に特化しています。自閉症の概念そのものはあまり古いものではなく、1943年のレオ・カナーとか1944年のハンス・アスペルガーとかという人たちの論文などが元になっています。戦後、日本が本格的に福祉を制度化していく時に、研究も始まったばかりで、自閉症の概念は狭いものでした。1960年の精



中島博幸さん

神薄弱者福祉法が制定された時の概念も狭かったことにより、知的障がいも併せ持った人が圧倒的なんだから、この法律で対処しようということになり、このスタートが根っこにあります。そこで、自閉症のお子さんを抱えた家族が養育困難に陥って、行政にSOSを出した時に紹介されるのが、知的障がい者の施設でした。一方、知的障がい者になったり、そういう中に、集団での活動が最も苦手な自閉症の人たちが送り込まれたわけです。行動障がいとか強度行動障がいと分類される非常に困難な状況の人たちが不適切な環境や関わりによってつくられるということ

が、その間の歴史でわかってきたのです。そこで、知的障がい者の親の会から別れて「日本自閉症者親の会」ができました。専門家を入れて「日本自閉症協会」ができました。さらに、自閉症の人を真ん中において、施設がつかれないかということで、1981年三重県にあさけ学園ができました。この経験を全国の親が共有して各地方で活動して施設ができたのです。この時は、施設の種別は入所更生施設だけでした。その後、入所か通所かということになり、ノーマライゼーションという方向性や海外の状況ともあいまって、相模原市では通所施設としてスタートしたのです。そこが風の谷の出発点となります。

司会／全般の状況はよくわかりました。ところで、この地でできるようになるにはどのようなムーブメントがあったのでしょうか。

中島／神奈川県の小児療育相談センターの所長をしておられた佐々木正美先生の存在が大きかったと思います。この先生がアメリカのTEACCHにつ

いて視察されてきて、チームアプローチという考え方で、専門家も家族も同列に並んで、本人を真ん中において議論していく、そのことの素晴らしさに感銘を受けられ帰ってこられました。その後、アメリカのノースカロライナの先生を日本の親の会が招いて、お話を聴くことになり、相模原でも行いました。こういったことが起爆剤になって、障がい者本人を中心において考える施設が欲しいとなったわけです。

◆風の谷の事業と仕事

司会／そういった外からの様々な刺激によつて、一人ひとりの親御さんが抱えていたものを皆で考えながら、拠点を作っていくということになったのですね。そして、親御さんたちが大変な思いをしながら、力を合わせてここに法人を作り施設をつくることになってきたのですね。さて、現在行われている事業にはどんなものがあるのでしょうか？

中島／私たちは「包括的な支援」が自閉症の人たちにとっては有効だと言っ

ています。だから、施設に通うことも大事だし、親御さん任せにしない外出の支援も大事、ヘルパーと一対一で活動することも大事、家族以外が夜間の支援を行うショートステイも大切と考えており、地域生活を安定して送っていただくことが大切だと考えています。そういったことから、今はこれらを組み合わせながら支援をさせていただいています。

司会／総括的なご説明で、全体観をよく理解することができました。では、これからは個別のことについてお聞きしたいと思います。薬師丸さんは相談支援専門員ということですが、実際には日常どのようなお仕事をされているのでしょうか？

薬師丸／養護学校を卒業して、いろいろな事業所に通ってみたものの、どこにも通所できないで在宅でおられる方の相談があります。そういう方をどういう風に日中活動に結び付けられるかということがあります。やまびこ工房や第2やまびこ工房に通えるだろうかというのがありますが、もう一方では、

知的障がいをとまわらない発達障がいの方のご相談を受けたりします。専門学校を中退したり、大学を中退したりされた方、中学校から不登校で18歳になつた方などのケースがあり、個別の支援が必要な方々です。こういう人たちとの信頼関係を築くために家庭訪問をしたり、一緒に同じ活動をするとか、何とか通所に結びつけたら良いなどと相談を行っています。また、相談支援専門員のやるべき仕事は、サービスと利用計画を作成することで生活介護、日中活動の行動介護、医療介護、短期入所などがどれだけ必要かなど計画する仕事をしています。

司会／なるほど、介護保険でいうケアマネージャーの立場をいうのですね。どの施設でどのくらいのサービスを受けられるかというアドバイスもされるのですね。

薬師丸／そうです。

司会／今の話の中で自閉症と発達障がいなどが出てきますが、そういう障がいは以前から総括的にみられていたものですか？

薬師丸／以前こちらに通っていた方たちは主に知的障がいを伴った自閉症の方でしたが、自閉症自体は、知的障がいではないので、発達障がいという概念ができて、支援をする法制度も整ってきて、相模原市が政令指定都市になったと同時に発達障害支援センターが出来ました。知的障害を伴わない方の自閉症というイメージだと思います。発達障がいとは病院に行っても中々診



薬師丸和浩さん

断がつかなくて、ご本人も家族も気づかなかつたり、大学生になったり、就職してからうまくできないためにパニック障がいになったりして、そういう状況から根本的な原因は自閉症スペクトラムにあるのではないかという事で

出てきました。
司会／野田さんはどういうお仕事をしていらっしゃいますか？

野田／グループホーム「ナウシカ」を担当させていただいています。上溝にあります。5人の方が入居されており、やまびこ工房で日中活動をして帰ってきて、また翌朝工房に行くという動きになっていきます。担当としては家に帰ってきてから出来るだけ無理のない個別のペースで皆さんがやりたいというペースで過ごしていただくように考えています。5人の方が一緒に暮らす空間になるので出来るだけゆつくり食事ができるように食事の順番だったり、入浴の順番などがある程度相談しながら本人のペースで過ごせるような環境を作るようにしています。

グループホームで一緒に過ごすことで自分自身、これが嫌いだつたとか、こういうことが好みだつたとかなど今だに新しい発見があることに気づかせていただいていることが多いので、すごく充実した現場に居させていただいていると思います。

司会／田中さんはどんな感じのお仕事ですか？

田中／私は日中活動がメインなんです。が、今、やまびこ工房で働いています。利用者は50名で女性8名男性42名です。毎日来られない方もいますが大体50名近い人が来られます。

日中は部屋が分かれていて10名前の方が部屋ごとに活動しています。その中でも一人ひとりのスケジュールがあり皆で一緒にやらなくても良く、個々の得意な事を生かしたり、出来る事をやってもらったりして、皆ぶつかったりしないように調整したり、活動提供したり、また、見守ったりという事で利用者が朝来て帰るまで穏やかに過ごしていただけるよう図るのが私のメインの仕事としています。その日によって出来たり出来なかつたりする波があるので、それを見てこうした方がいいかなと柔軟に考え、他のスタッフと相談してやりますが、なかなか難しいです。

司会／他のスタッフとのすり合わせが必要ですね。

田中／昨日はどうか、その前はどうかをスタッフと話し合って、今度はどうしようかと話し合ってどんどん変わっていく事もあります。

◆仕事のやりがいとは

司会／これらの事がやりがいに繋がるのでしょうか。野田さんの場合はどうですか？

野田／遅番、早番の形で非常勤のスタ



野田正太郎さん

ップにも入ってもらって、夕方4時から9時までと 朝7時から9時まで、複数のスタッフで話し合っています。スタッフ間で食事の出し方についても、例えば、この皿で出したら食べてくれたとかという情報を即座に全体化

するとか、その辺はすごく気を使っているところ、これは暮らしの場面ですが、良い状態でやまびこ工房に行けるということは一番気を使うことです。また、それぞれの方の行動を見ても解の仕方が違うので、その上でスタッフと話をさせてもらうのは、その人の行動を見て、訴えとしてとらえる部分であったり、それが何らかのコミュニケーションションとしてとらえるのか、何かの体調の悪さとしてとらえるのか、そういういったものを見方を統一しながら記録を取って確認していき、今はこういう見方をしていきたいと思いますというところは確認をしながら考えてやっているところです。

司会／薬師丸さんは相談を受けたりしている中で、難しい相談とかありませんか。

薬師丸／相談で難しいなと思うのは、家庭の中で完結されてしまっていて、ご家族との関係だけで、ご家族がかなり負担を強いられるという場合などです。パソコンを使いネットで色々調べたりして楽しまれている方、外に

出かけていく理由がないというか、そういう方なんかはどうやって活動に近づけていこうかという難しさを感じますね。外に出て行くこうという気持ちがある方は、こちらが環境調整をすることができれば、通所できるので、福祉とつながっていくことによって、何かあった時に家族だけで抱え込まずに済む事ができるかと思えます。家庭訪問をしてもぜんぜん応えてくれなかったりしますが、続けていかなければならないので、そういう場合は難しいなと思います。

司会／やってみたらうまくいったという事はありますか？

田中／こつちがしたことに對して利用者さんの反応を早く求めてしまうんですよね。でも、そこはじっくりと待つて、今日はダメだけど、明日、来週、一か月後という感じで、ちよつと長期的なスパンでどつしり構えて、観察して記録を取つて、みんなて話し合つて、まあ待つということを大事にすると、結果急がなくても、あーできたねということはあるかと思えます。

野田／大皿だったのを小皿に分けたら全部食べてくれたとかいうのは、グループホームではわりと日常的にあることです。やったぜ！の場面なんですけど。開所当時は、やっぱり皆さん自分の場所じゃなかったというか、動き方も出来上がってないし、職員が組み立てをして、それを各利用者さんにお伝えをして、そのように過ごしてもらおうという傾向が割とあつて、全く皆さんにどう寝てもらうかとか、どうやって暴れないで済ますかみたいなのに追われている状況もあつたんですけども、時間をかけて一緒に過ごしていく中で、この人が好きなんだ、これが嫌いなんだということがわかつて来ています。利用者さんご自身がこうやるとうまく過ごせるということが、今までの暮らしの中で見出してこられた部分はいっぱいあつて、ナウシカは今皆さんの暮らしの場所には近づいているんじゃないかなつていう思いはあります。これからはどうやって、上溝の住民として地域の人たちと顔なじみになつていけるかというのは、悩

んでいるところで、買い物だったり、散歩だったり、水やりだったり、外の方と顔を合わせる機会をつくらうということ、まずはゴミ出しだったり、こちらで設定させていただいて、あいさつを交わすということを心がけていきます。

司会／それによつて地域の方の変化はみられますか。

野田／そうですね。ゴミ出しにしろ、決まつた時間に行くので、決まつた方に合うんですね。なので、近所の方は向こうから声をかけてくださることが今は普通になつてきています。その意味では一歩前進しているのかなと思います。ただ、事業所という扱いなので、なかなかそこで地域住民と全く同じように扱われるにはまだまだです。もつと関係性を作つていく必要があるし、地域貢献という部分で職員がしっかり取り組んでいかなければならない部分かなと思つています。

◆これからの課題

司会／田中さんは、これからの課題と

して考えた場合に何かありますか。

田中／そうですね。課題って、まあたくさんあるんですけど（笑）利用者さんも若い方は養護学校を卒業して、18、19歳でいらっしやるんですけど、開所当時からここに通っている方は40〜50歳の方が多くなっていて、年齢とともに変わってくるってところって大きいんですよね。自閉症っていうところだけでなく、体の変化だったり、男女だったり、性差があるわけですけど、そういうところって、どこまで対応して日



田中咲祐紀さん

中安心して活動してもらえるかということ、最も大きな課題かなと、職員も経験したことがないことが増えてくるのかなと、ちよつと心配なところも

あります。

司会／薬師丸さんの方はどうですか。

薬師丸／内部的なところと外部的なところ両方があるかとは思っているんですけども。自分の立場として外部に関わることがありますが、やはり相模原市自閉症児・者親の会が母体となってきた法人でもありますし、自閉症に特化した法人として外部の方から求められている専門性というのを、どう広め、役に立っていくかというところはありません。自閉症で対応が難しいので受けてもらえませんかというようなことでも来られますし、そこをどう対応していくかということ。しかし、人手不足というのがあります。人材育成とともに、この仕事が魅力的なものだということを地道ではあります。どう発信していくかということ。は今後の課題ですね。この仕事に対する魅力を伝えていくというのは、若い人がここで仕事をしたいって思ってもらえるような、そういう仕事の仕方をしていかなくちやならないと思っております。

司会／すごくかっこいい仕事だなと、私は思いますが、それをやってみようと思う方が次々と出てきてくれるかどうか、また難しいんじゃないかな。

薬師丸／やればやるほど深い、意味のある仕事だとわかるんですけど、福祉法人がみな同じかというところでもないし、風の谷は風の谷独自に取り組んでいることもあり、ここで働いている以上はうちのやり方だと思ってるって頑張っているところもありますので、そういう魅力ですかね。

◆魅力発信

司会／この仕事をもっと若い人に伝えたいという点で中島さんいかがでしょうか。

中島／そこです。相模原市で今いろんな工夫をしています。一つは福祉の仕事魅力発信事業というものを市社協さんともにとり、各個人、事業所からそれぞれ障害、高齢、保育という現場から比較的若手の職員に出てもらって、そしてプレゼンをしたりそれをDVDにして配布したり魅

力発信するところ。高校で授業を受けてくれるところでは、そこへ行って若手の人たちが、魅力発信のことを直接お話ししたりとかということはやっています。就職相談会みたいなところにお互い招き入れて対応するとか、そういうことをやっていますがきびしい状況です。

司会／仕事の内容が個別的で、やり方を決めたらこれでいいんだ、と言うようなことが一つもなくて、すべてが工夫とか、クリエイティブなお仕事じゃないかと思えますので、そういうのが好きな方はすごくいいけど、そこまではできないと思っちゃうと、すつと通り過ぎていくという難しさがありますね。野田さんもすごく苦労されているけど面白みもあるわけでしょう？

野田／やあ面白いですね。自閉症の方の魅力に取りつかれて20数年ですよ。**中島**／薬師丸課長なんかはそういう意味では面白い経過を辿ってここに来ているので語ってもらえるといいですね。**薬師丸**／学生の時にインド哲学を勉強しておりました。勉強したのは、人の

役に立つって結構わからない、人のためだといながら人殺しをすることもありません。で哲学をやればわかるんじゃないかと。5年かけて卒業した時には就職できない状況になったというのがありました。学生の時に地下鉄サリン事件が起きて、彼らは人のためだと思っでああいうテロ事件を起こしたとすれば、「人のため」ってやっぱ怖いなっていうのをその時思っただですよ。で、人のためって考えるのはよそごと、

好きなこととして生きてっていいかなと思っただので、仕事して、好きな釣りをしたりとかしながら生活していたんですけど。それでも仕事していかなきゃいけないというところで、たまたま29歳の時に、この仕事にアルバイトで入りました。ところが、本当におもしろかったんですよ。最初にこの中に入って利用者さんを見たときにとっても感動して、こんな面白い人がいるんだと思いました。こういう人たちのことを知ればより人間を知ることができるんじゃないかというのが自分のモチベーションになり、本を読んでもわから

なかったけれども、彼らを知ることによってわかることがあるんじゃないか、より人間の根源を教え見せてくれる方たちなので、そういう魅力ですね。個別支援というと一人一人を理解しながら支援を組み立てていくというところで面白さがあるので、こうやってより理解を深めることが、仕事をしながら気づいたこととか、自分自身も変わった部分とかたくさんあったかなと思っています。

それでもやっぱり、利用者のためっていうことを建前は言うんですけど、自分が楽しんでるかどうかが一番大事ですね、楽しくないことはしないというような気持ちで仕事をしています。自閉症の方自体が面白かったんですけど、常務理事からいろいろ福祉についてのお話も伺いながら、より興味を持ったというか、いろんな視点で考えること、それがまた楽しいですね。**司会**／最後はぜひぶん深い話まで行ってしまいました。それぞれ素敵なお話ありがとうございます。私自身にとっても勉強になりました。(おわり)

ふくしワンポイント情報

今回から複数回に分けて、現在「ぼらんていあ通信」に掲載中の「社協事業紹介」記事を転載させていただきますことになりました。よろしくお願ひします。

ボランテティア協会員の皆さま、こんにちは！

相模原市では多くのボランテティアの方々、自治会、地区社協、民生委員・児童委員の皆さまがそれぞれの地区で福祉活動に取り組んでいます。市と市社協



も、多くの方々のご協力を得て様々な福祉事業を展開し「みんなで支え合い 地域の力が育む 人にやさしいまち さがみはら」を共通のローガンとして、地域福祉の推進に取り組んでいます。

今号から、紙面をお借りして市社協が取り組む福祉事業を紹介します。第一回は平成三十年度の基本方針と、重点的な取り組みです。ちよつと固い記事になりますがご容赦ください。

◎基本方針（要旨）

超高齢社会を迎え、支援が必要なお年寄りが増えていることや、社会的孤立、子供の貧困など官民協働での取り組みが求められています。市社協では「地域で困りごとを相談、解決できる仕組づくり」を進めるため、現在二十二地区に担当職員（CSW）コミュニティソーシャルワーカー）を配置し、個々の生活上の困りごとを受け止めながら、民生委員や地区社協等と解決方法を相談しています。

また、子供の居場所（子ども食堂、無料学習塾等）づくりやひきこもり支援などに取り組む市民活動団体と連携し、地域での孤立の防止等を図ります。

認知症や障がい等で判断能力が十分でない方々への支援は、日常の金銭管理や法人による成年後見など「あんしんセンター」が担ってきましたが、この度「さがみはら成年後見・あんしんセンター」としてリニューアルし、権利擁護の総合的な支援を目指すこととしました。

こうした事業を通して「みんなで支え合い地域の力が育む 人にやさしいまち さがみはら」の実現を目指してがんばります。

◎重点的な取組（要旨）

①地域で困りごとを相談、解決できる仕組づくりを進めます

二十二地区が推進

する「福祉コミュニティ形成事業」とCSWが連携し、地域の課題解決力の向



上を目指します。また、高齢者の生活支援や介護予防の仕組づくりは、地区社協等の取り組みや高齢者支援センターと連携を進めます。

② 高齢者、障がい者等の権利擁護を進めます

認知症高齢者や障がい者等の身上保護や金銭管理を進めます。また、成年後見専門相談の充実を図り制度の普及を促進すると共に、市民後見人の養成、活動支援等に取り組みます。

③ 生活困窮者の支援を進めます

生活困窮者の自立、社会参加は「生活

困窮者支援団体応援事業」、子ども食堂や無料学習塾の支援は「子ども健やか育成事業」で対応します。子どもの居場所を創設するためのセミナーや手引きの作成なども行います。

④ 福祉の土壌づくりを進めます

福祉啓発事業として「近所おむすびサポーター」を広めます。また高校生が将来の福祉人材として活躍できるように「高校等キャリア教育推進事業」を推進します。さらに財源支援での福祉活動への参加の形として「特定目的基金」へのご寄付や「遺贈」の普及をPRします。

次回からは事例等を通して事業を紹介します。お問い合わせは市社協福祉推進課までどうぞ



相模原の史跡 勝坂の有鹿谷

このページでは相模原の史跡を紹介します。

勝坂の遺跡は縄文時代中期（約5千年前）の大集落跡として有名ですが、実は勝坂の坂下には海老名の有鹿（あるか）神社に關係のある小祠があり、有鹿神社奥社とされています。

海老名の有鹿神社の縁起にある有鹿谷の霊泉であり、続縁起には中世末期の天正3年（1575年）に別当の総持院慶雄が夢告によって、お宮の東北の池の中から一つの石を見つけ、これを「ご神体」としています。また、慶雄がやはり夢中の神告によって、瑞鳥の飛ぶ後を追って行ったところ、そのとまった場所に泉があり、それが清泉の湧き出る有鹿祠であったといえます。

以来、毎年4月8日の祭礼の時は、神官が先頭に立ち、氏子が大勢で「ご神体の石を納めた神輿をかついで、8キロの道をこの有鹿谷



有鹿谷小祠

まで来て、神事を奉行しました。神事ではご神体の石をここに奉安し、一夜を明かした後翌日一旦海老名にもどり、6月14日に、ふたたび「ご神体を迎えに来たそうです。田植えがすむまでの2ヶ月の間、ご神体は有鹿谷にあったこととなります。

この神事を土地の人々は「有鹿さまの水もらい」と言っていました。海老名耕作地の灌がい用水確保のために作られた神事であったでしょう。すぐ近くを流れる鳩川の水を用水として使用する磯部や新戸、座間などとの間での微妙な關係が推察されます。

この近くから4世紀のヤマト文化を示す

祭祀遺物が発見されたことから、勝坂の小祠は海老名の有鹿神社の本宮かもしれないとも言われます。



JR 相模線下溝駅からは徒歩で15分程度。勝坂遺跡の駐車場を目標にし、駐車場から坂を上らずに南方向に歩きます。木道が整備されています。

※座間美都治著「相模原の史跡」を参考にしました。

わくわくさん

作 髯野 克己

絵 鹿野 徹子

食べることだけは。



高齢者・障がい者の 相談は

介護保険に関する相談窓口

042-769-8321

介護保険課

給付・保険料 042-769-8321

認定 042-7698342

緑高齢者相談課 042-775-8812

中央高齢者相談課 042-769-8349

南保健福祉センター

042-701-7704

城山保健福祉センター

042-783-8136

津久井保健センター

042-780-1408

相模湖総合事務所 042-684-3215

藤野総合事務所 042-687-5511

障がい者の相談窓口

緑障害福祉相談課 042-775-8810

城山保健福祉課 042-783-8136

津久井障害福祉課 042-780-1412

相模湖保健福祉課 042-684-3216

藤野保健福祉課 042-687-5511

中央障害福祉相談課

042-769-9266

南障害福祉相談課 042-701-7722



未来の僕へ贈る

増田寿昭

十年後、二十年後の、

この僕を見て。

今よりも、今より、

ずっと、元気になるよ。

十年後、二十年後の、

この僕を見て。

今よりも、今より、

ずっと立派になるよ。

その日がくるのを

まっている。

その日がくるのを

信じている。

その日がくるのを

夢みてる。

十年後、二十年後の、

世の中を見て。

そのときは、そのとき、きつと、

僕らが主役。

そのときは、そのとき、きつと、

僕らの時代。



人生歌道

坂本隆夫

サハラ ゴビ 砂漠の地

砂の一粒 オレのよう

歌に一筋 生きてきた

夢に 出るのはさ 家族たち

仲良く絆 包まれて

長生きするぜ いつまでも

人生歌道 オレの道

力 抜き 今もまた

夢の続きは もう一度

いつかできるさ 人のため

歌に 学んだ こと多し

人生途中の 一里塚

つまらぬことは 忘れろよ

人生歌道 オレの道

月が 出て 星々よ

星の一つが オレのよう

宇宙(そら)の一粒 流れ星

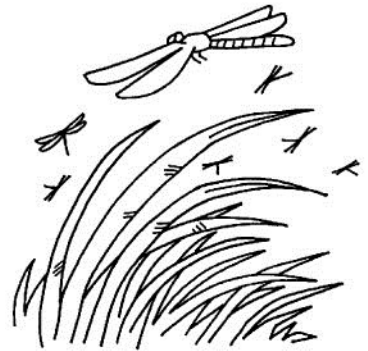
生きてこれたよ 感謝あり

涙ないんだ 強さあり

今日も 出たぜと 太陽が

人生歌道 悔いはなし

人生歌道 悔いはなし



このコーナーでは障がい者の皆さんの作品を紹介しています。

市内高齢者支援センター

二十六か所を訪問 その22

津久井高齢者支援センター

『オジャマシマス』は前回までに二十か所の「地域包括支援センター」を訪問し、紹介してきた。四月からは「高齢者支援センター」と愛称で呼ばれるようになり、数も二十六に増えた。今回の訪問先はその中でもっとも広域を担当、包括する「津久井高齢者支援センター」だ。あじさい会館に集合・出発、センターのある緑区中野まで一時間のドライブ。期待していた山の紅葉はまだまだで残



管理者の吉田さん



念！電話番号をナビに入れ走るとセンターが七月の移転前にあつた根小屋^{ねこや}に到着。あわてて新住所を入れ直し約束の時間に少し遅れてセンターに到着。向かいには津久井街道を挟

んで県合同庁舎があり以前訪れたことのある津久井総合事務所も傍に見えた。管理者の吉田直子さんがおられ、中は明るく静かだった。七人の職員で運営し、今日は他のみなさんは外廻りとのこと。開設以来八年、三人からはじまり、今は七人で頑張っていると話された。「根小屋からここに移転して以前より多くの方に利用してもらえるようになったのが良かった！

バス通りに面している利便性や、公共機関が近くにあり、出向きやすくなったのでは」とのことです、山懐に囲まれ、市全体の面積約三分の一を占める津久井地域を網羅するご苦労について伺った

ところ、「広いから大変ということを私たちは感じないが、高齢者の方がセンターに相談したくともその広域ゆえに路線バスの運行も限られており、タクシーも簡単にはつかまらない状況では足の確保が高齢者にはままならないので、もっぱらこちらから出向くことが多いです」とのこと。

地区社会福祉協議会の活動として「やすらぎステーション」があり、月一回の、歌やレクリエーションを楽しみ高齢者同士の交流をする場として開催されているが、そちらにおじゃましてセンターの周知や情報提供を行っている。また、センターでは介護者おしゃべり会を月一回行っており、介護者同士のおしゃべりだけでなく、けんこう号というマイクロバスを借り、施設見学等も行っている。

通院の足の確保のための移送サービスは市の在宅福祉サービスの一つで、その利用の相談が一番多い。他に、給食サービス・緊急通報サービス・家事援助サービス、日常生活用具の給付などがある。

センターの入口を入ると歩行支援用具としての靴や杖、シルバーカー、入浴補助用具などが展示されている。日常生活用具給付の対象の物や介護保険の対象の福祉用具もある。

年二回発行している包括通信「つくい」を見ると十二月には「認知症サポーター養成講座開催」のお知らせがある。また毎月第三金曜日の「介護者おしゃべり会」の十二月のご案内は「おしゃべりとクリスマス」となっている。もうそんな時期なんですね…。

忙しい暮になる頃には津久井では一足早い寒さが訪れているのでしようね。皆さん、風邪などに気を付けてご活躍ください。
(恒藤・三十尾・小林)

*津久井高齢者支援センター

相模原市緑区中野九六六・五

電話 〇四二・七八〇・五七九〇



この施設訪問の記事は、以前「ぼらんていあ通信」に掲載されたものを転載したものです。内容について一部古いものがあるかもしれませんが、記事作成当時の内容ですので、ご容赦ください。

sわくわく編集委員及び印刷・製本ボランティアさん 募集！！

編集委員として、企画から取材・座談会など幅広くボランティアに関する情報を、できるだけ新鮮なまま読者に提供できるよう活動していただける人材を募集しています！

また、編集に携わるのは無理でも印刷や製本のお手伝いならできるかも…。というボランティアさんも大募集です！

お気軽に、まずは電話をしてきてください。お待ちしております。

連絡先 〒252-0236

相模原市中央区富士見6-1-20

相模原市立あじさい会館中央ボランティアセンター内

相模原ボランティア協会 広報委員会わくわく部会 まで

TEL 080-3175-2139 (小倉)

今回は、

「おはなしワニーズ」の

富永ナル子さん

をご紹介します。

相模大野の喫茶店で会いしま

した。

活動は

私達は布壁シアターやエプロンシ
アターを使って、おはなし会や手作り



の布絵本や布おもちゃに触れて遊んでいただくボランティアをしています。

「ワニーズ」というのは手づくりのワニの大きなパクパク人形から「ワニーズ」としましたが、「和ニーズ」「輪ニーズ」「話ニーズ」であることが、後で気づきました。

もう二十八年になります。いろいろな活動を経て、平成十四年から「おはなしワニーズ」として活動しています。活動を支えるメンバーは、二十五人程です。(三十代〜八十代)豊富な経験や特技を持ち、子どもや絵本、縫う事大好きな人達が集まって布絵本の手作り。訪問活動でお話し会をと、できる分野で連携プレーで小学校(朝読書、授業時間、支援級)こどもセンター。児童クラブ、保育園、特別支援学校、高齢者サロン、など様々な活動をしています。相模原市立図書館では、障が

い者団体に貸し出しをしています。布絵本の制作は主に「おはなしワニーズ」が担当しています。

最近では簡単におもちゃが手に入り、私達の周りにあふれています。そんな中でワニーズの手作り布おもちゃ、布絵本は子供達の心を捉えます。

大人と子供が楽しんで共有できる時間はとても大切です。また、自分で触ってみることで指先の感覚を養い、五感を発達させることも大切です。

私達は、活動を通してこども達から学ぶこともしばしばです。

ご出身は

町田相原生まれです。相原小。境中。町田高校を卒業し、川崎NECに勤め、職場で知り合った主人と結婚。子供は、娘(三人の子持ち)長男、次男とそれぞれが独立しています。

「ナル子」という名は、めずらしいですが、祖母がつけました。父が出征し

ていて留守に生まれ「なせば成る」と願って「ナル子」とつけたということです。

「趣味は

洋裁が好きだったので布絵本と出会、針を持つことが好きで手で何かを作る事が好きです。また、ガーデニングとまどとはいきませんが、狭い庭で鉢植えの花を咲かせ楽しんでいきます。

音楽は

さだまさしが好きです。昔の歌謡曲を聴いてリラックステキしています。

最近読んだ本は

かこさとし「未来のだるまちゃんへ」瀬戸内寂聴さんの本。その秘書の方の本。生きる力をもらえる本が好きです。

「これからの自身は

今までのことを続けていく。布絵本を続けていきたいと思えます。今年八月二五日・二六日と夏休み企画として、

「おださがプラザ」でワニーズの自主イベントがありましたけど、毎年参加してくださる方や初めての方々で会場いっぱい笑顔があふれ、また、いい出会いがありました。

来年二月。市立図書館で「布えほんひろば」というフェスティバルがあるので、それを目指して制作を始めています。

~~~~~

インタビューの後で布の絵本を見せていただきました。一枚一枚全部富永さんの制作で、一針一針にその愛情が感じられた見事な布の絵本でした。

また、小学校の「朝読書」に行った後で子供たちからの感想文を集めた作文集を見せていただきました。「富永さん、ありがとうございます。」とお礼が書かれ、「これは私の宝物になっています」とおっしゃった顔がとても輝いていました。

いつまでもみずみずしく活動なさってください。

お元気でご活躍を！

聞き手 山本 和子



学校での読書会の様子



### 「自分自身」①

右手の人差し指で自分の胸をさす。そして、人差し指を跳ね上げるようにして胸から離す。



### 「自営業」

いくつかの動作の組み合わせで「自営業」という言葉表現しますが。

- ① 自分自身
- ② 立つ
- ③ 働く

という要素で表現します。

今回は、自分の周りの手話の基本的な単語を覚えていきましょう。

単語を覚えることで、簡単な会話を楽しみましょう。

次は文章表現です。

会社と家が遠いので疲れます。

### 「働く」③

両手の指先を向かい合わせ親指は手のひらの上にくるようにし、離したり寄せたりする。(両手で書類を整理する動作)



### 「立つ」②

右手の人差し指と中指を下向きに伸ばし、左手の手のひらの上ののせる。



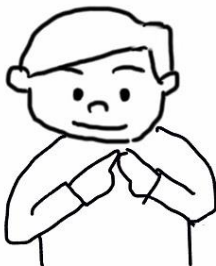
### 「遠い」

両手の甲を上にして軽く握り、胸の前にくっつけて置いた後、右手を斜め前方に出す。(遠い位置関係を表す)



### 「家」

胸の前で手のひらを向かい合わせ、指先をくっつける。(屋根の形)



### 「会社」

両手の人差し指と中指を立て、頭の横に上げ、右手を前方に、左手を後方に置く。次に、右手を後方にひき、左手を前方に出す。



以下の単語を変えるだけで、別の文章をつくれます。  
やってみましょう。

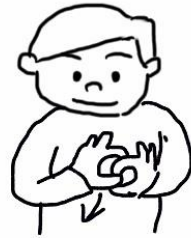
### 「疲れる」

両手の手のひらを内側にして、胸の上方に当て、肩の力を抜きながら下にダラリと落とす。(疲れた表情も)



### 「～なので」

両手の親指と人差し指で2つの輪がつながった形を作り、そのままやや前ばい下に出す。(順接を表す。だから・そして・それで、など同じ手話)



### 「職場」

#### 「働く」+「場所」

場所→右手でつかんだボールをそっと置くようにして手を下す。



胸の前で手のひらを向かい合わせ、指先をくっつける。(屋根の形)



### 「学校」

両手の手のひらを本に見立て、よむしくさから「勉強」を表し、次に屋根の形をして「勉強する家=学校」を表現する。



いかがでしたでしょうか？会話が楽しくなりますよ。

### 「楽」

右手の親指と人差し指で輪をつくり左手の甲の上に置く。右手で左手をつまみ上げるようにして、両手を一緒に上下させる。(右手で左手を軽々と持ち上げるしぐさ。(楽しい表情で)



### 「近い」

「遠い」の反対で、軽く握った両手を離れた場所に置き、一方を引き寄せる。



# パズルにチャレンジ 解答編

今回の問題は2018FIFAワールドカップ  
ロシア大会からでした。出場国を考えてください。  
たった32ヶ国ですよ。

|    |    |     |    |     |     |    |    |    |
|----|----|-----|----|-----|-----|----|----|----|
| ①ア | イ  | ②ス  | ラ  | ンド  |     | ③ウ | ル  | ④ゲ |
| ル  |    | ペ   |    |     |     |    |    | ロ  |
| ゼ  |    | ⑤イン | グ  | ⑥ラン | ⑦ド  |    |    | ア  |
| ン  |    | ン   |    |     | ジ   | イ  |    | チ  |
| チ  |    |     | ⑧ネ | ガル  |     | ツ  |    | ア  |
| ン  |    |     |    |     |     |    |    |    |
|    | ⑨コ | ⑩ロ  | ン  | ⑪ピア |     | ⑫ベ |    |    |
| ⑬ス |    | シ   |    | ア   | ⑭ベル |    | ⑮イ |    |
| イ  |    |     | ⑯オ |     |     |    |    | ラ  |
| ⑰ス | ウ  | エ   | ー  | デン  |     | ⑱ニ | ホ  | ン  |

## ヨコのかぎ

- ① 日本の北海道と四国合わせた面積の島国
- ③ かつて世界貿易の通商交渉があった舞台  
○○○アイ
- ⑤ 連合王国のうちの一つ。大都市を有する。
- ⑧ セ○○○。サハラ砂漠の西南にある。
- ⑨ ラテンアメリカ第3位の人口。内戦が続いた。
- ⑭ ○○ー。かつてインカ帝国の中心であった。
- ⑰ 北欧。ノーベル賞にも関係している国
- ⑱ 日本人のほとんどはこの国を応援しただろう。

## タテのかぎ

- ① 南米。スペインの植民地であった。
- ② イニエスタが所属する国
- ④ ユーゴスラビアから独立した国
- ⑥ ブ○○○。これだけでわかる。
- ⑦ 我がお隣の国に負けてビックリ！！
- ⑩ ○○ア。開催国です。
- ⑪ セル○○。床屋さんが多いわけではない。
- ⑫ ○○ギー。最近めきめき強くなった。
- ⑬ 永世中立国。赤十字が始まった国
- ⑮ 中東、石油が豊かな国。
- ⑯ ○○オーストラリア。ラがないとヨーロッパの国

濁音、半濁音はどちらでも  
なしでもありでも読めるということで

□の5文字を集めましょう。  
ヨーロッパの西端、ロカ岬がある。  
**ポルトガル**

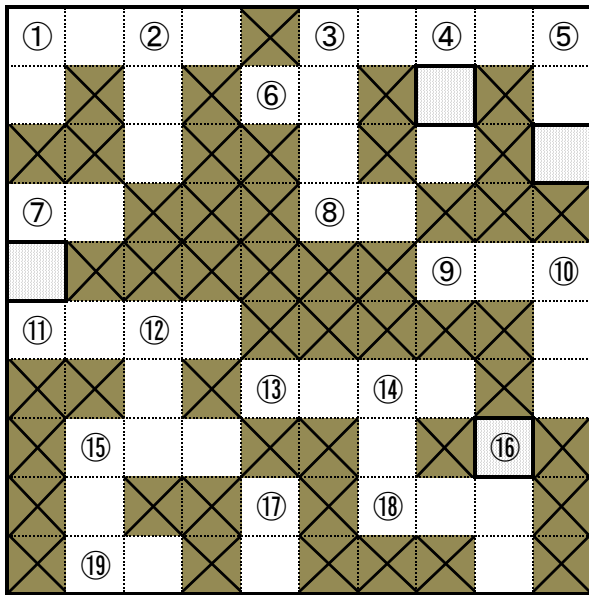


# パズルにチャレンジ 問題編

今回の問題はさかなの名称です。

細かな分類ではありません。

皆さんがよく知っている名前ばかりです。



## ヨコのかぎ

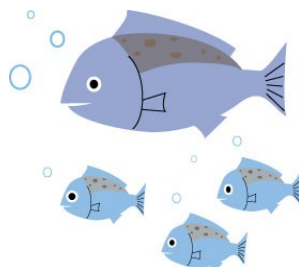
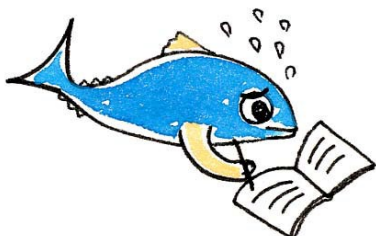
- ① キラリと光る武士のいのちに似てる
- ③ 赤いカラダに金色の目。煮物は絶品！
- ⑥ フジヤマの〇〇ウオと言われた水泳選手がいた
- ⑦ 10本の腕。干したものは縁起物でもある
- ⑧ ハゼ類の形をした淡水魚を指す一般名
- ⑨ 平たくて目が体の右に2つともある
- ⑪ 半透明の細長い小魚。生食も可だが要注意！
- ⑬ 北海道の太平洋岸で捕れる柳葉のような魚
- ⑮ カサゴの仲間。〇〇〇メ。底生魚
- ⑰ 体はクロダイ似。イスラム教第2聖地と同名
- ⑲ 5月に空を泳ぐ、縁起のいい魚。尾頭付きがいい

## タテのかぎ

- ① 〇〇にゆうどうと言えはこれ！
- ② このところ価格が高騰している。シラス〇〇〇が捕れなくて
- ③ 全長10cmの小魚。刺身もいい。ハマゴイとも
- ④ 春告げ魚とも言われる。淡白な白身魚
- ⑤ 磯魚に由来とか？ 幼魚はウリボウとも
- ⑦ マ〇〇〇、ウルメ〇〇〇、カタクチ〇〇〇
- ⑩ 1. 5mlにも達する淡水魚。人の名前か？
- ⑫ ハヤと呼ばれることも。コイ科淡水魚
- ⑭ サケの仲間ながら一生を河川で過ごす
- ⑮ ウナギとどこが違う？ 〇〇〇井が代表的
- ⑯ イ〇〇〇。幼魚を煮込んだ釘煮が有名だ
- ⑰ 香りのよい魚とされる。6月1日解禁が多い

濁音、半濁音はどちらでも  
なしでもありでも読めるということで

□の5文字を集めましょう。  
フグの仲間。皮はざらざらだが美味  
□ □ □ □



## 私が選んだハイキングコース (2020 東京オリンピック自転車競技コース) ～市内を走るコースの一部を歩いてみました～

2018 年 8 月 9 日、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会から、2020 年東京オリンピック競技大会における自転車ロードレース競技のコースが発表され、相模原市緑区内を通ることが決定しました。ではでは、どんなコースなのか、橋本駅から小倉橋まで歩いてみました。全 6 km、1 時間半のコースです。

①競技コースは当市には、町田市を通る町田街道から入ってきます。そして、町田街道と 16 号バイパスが交差する坂下交差点を 16 号へ左折します。徒歩では上の道を通る訳にはいきませんから、別に作られている歩道を歩きましょう。坂下までは橋本駅北口から左側の商店街に入り、香福寺を經由し、てくてく歩いて 1.5 km、20 分程でしょう。この時に先ほどの歩道を逆に進むことになってしまいますが……。

②次に元橋本の大きな交差点に差し掛かります。歩行者は歩道橋を利用しましょう。元橋本には左側の宮下方面からの道路が右手に突き抜けており、右折してそちらに進みます。この通り沿いには、比較的新しい街が拓けているようです。

③まっすぐな道をしばらく歩くと、JR 横浜線との立体交差で下を通ることになります。なるほど、これなら競技にも支障がないようですね。歩道もきちんと線路の下をくぐるようになっていきます。相原 2 という交差点を左に曲がり、少し歩くと、出ました津久井街道にぶつかりました。(相原台交差点)

④後は津久井街道をのんびり歩いて行きますと、原宿を通り、旧城山町の役場などがあつた地域に入り、坂道を下って、久保沢を左に曲がり、直ぐに右側へと降りれば、旧小倉橋に着きます。ここは、急坂の上にヘアピンカーブです。こんな所で自転車は大丈夫かなと心配になりました。旧小倉橋からは串川橋、青山、道志道へと続いていきます。

\*\*\*\*\*

出発地点の町田街道「坂下」までは橋本駅北口から大戸行や法政大学行のバスが 1～2 本/時間で出ており、10 分以内で着きます。また、16 号側の「橋本本町」バス停には 1 時間に 2 本のバスが出ています。

帰りの小倉から橋本駅までは 1 時間に 1 本程度のバスがあります。

(西本 敬)





町田街道から坂下交差点へ、ここで左折



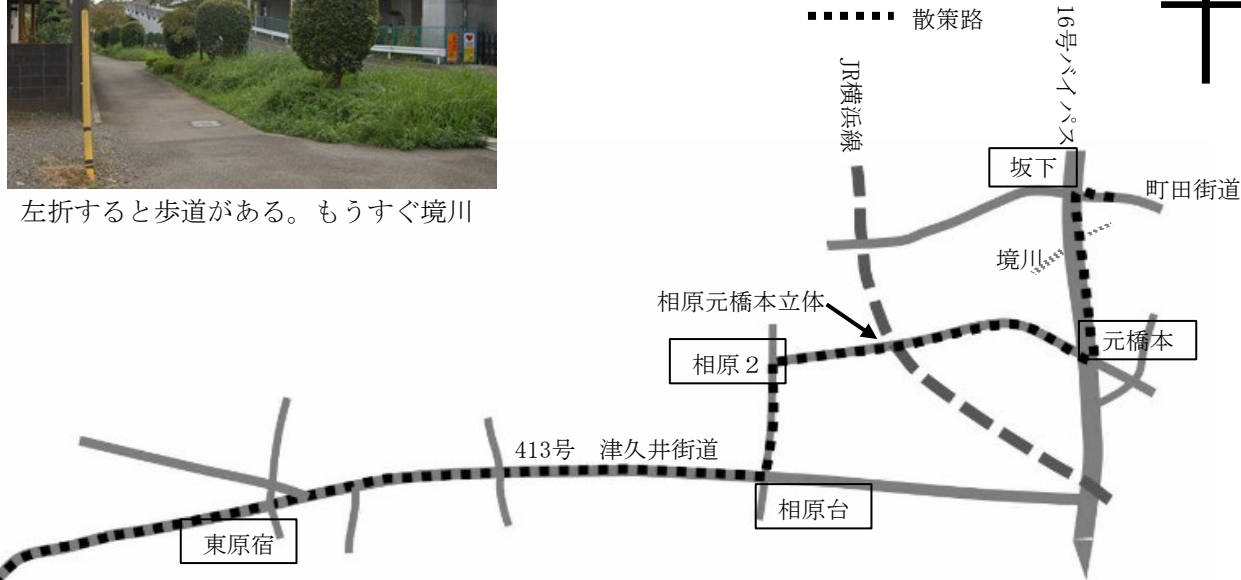
左折すると歩道がある。もうすぐ境川



ひとまずの終点、新旧小倉橋を望む。手前が旧小倉橋



# 東京五輪・自転車競技の道を歩む



2015年にできた相原元橋本立体歩道も横浜線の下を通る



久保沢を左折すると急坂で旧小倉橋へ



## 一情報のページー市内のまちづくりセンターー覧一

今回は、約10年前に発行した「わくわく第3号」に掲載したまちづくりセンターの一覧です。掲載当時は出張所という名称で、政令市前なので区の記載がありません。kp  
れまでの情報を一新しました。（この情報は、相模原市のホームページから抜粋）

| No | 名称            | 区名  | 住所          | 電話番号         |
|----|---------------|-----|-------------|--------------|
| 1  | 橋本まちづくりセンター   | 緑区  | 西橋本 5-3-21  | 042-703-0354 |
| 2  | 大沢まちづくりセンター   | 緑区  | 大島 1776-5   | 042-761-2610 |
| 3  | 城山まちづくりセンター   | 緑区  | 久保沢 1-3-1   | 042-783-8117 |
| 4  | 津久井まちづくりセンター  | 緑区  | 中野 633      | 042-780-1403 |
| 5  | 串川出張所         | 緑区  | 青山 1012     | 042-784-2604 |
| 6  | 鳥屋出張所         | 緑区  | 鳥屋 1064     | 042-787-0611 |
| 7  | 青野原出張所        | 緑区  | 青野原 1250-1  | 042-787-0002 |
| 8  | 青根出張所         | 緑区  | 青根 1372-1   | 042-787-2511 |
| 9  | 相模湖まちづくりセンター  | 緑区  | 与瀬 896      | 042-684-3213 |
| 10 | 藤野まちづくりセンター   | 緑区  | 小淵 2000     | 042-687-2119 |
| 11 | 本庁地域まちづくりセンター | 中央区 | 中央 2-11-15  | 042-707-7049 |
| 12 | 大野北まちづくりセンター  | 中央区 | 鹿沼台 1-10-20 | 042-861-4512 |
| 13 | 田名まちづくりセンター   | 中央区 | 田名 4834     | 042-761-0056 |
| 14 | 上溝まちづくりセンター   | 中央区 | 上溝 7-7-17   | 042-762-0079 |
| 15 | 大野南まちづくりセンター  | 南区  | 相模大野 5-31-1 | 042-749-2217 |
| 16 | 大野中まちづくりセンター  | 南区  | 古淵 3-21-1   | 042-742-2226 |
| 17 | 麻溝まちづくりセンター   | 南区  | 当麻 1324-2   | 042-778-1006 |
| 18 | 新磯まちづくりセンター   | 南区  | 磯部 916-3    | 046-251-0014 |
| 19 | 相模台まちづくりセンター  | 南区  | 相模台 1-13-5  | 042-744-1609 |
| 20 | 相武台まちづくりセンター  | 南区  | 新磯野 4-1-3   | 046-254-3755 |
| 21 | 東林まちづくりセンター   | 南区  | 相南 1-10-10  | 042-744-5161 |



## あなたもハンディキャップボランティア号に 乗ってみませんか

～協会PRのページ～

協会では運転や介助のボランティアをやっていただける方を募集しています。また、ボランティアをやってみようという方のために1日体験の機会をもうけています。地域社会へのデビューのチャンスです。どうぞチャレンジしてみてください。



車の運転ならま  
かしといて下さ  
いよ！

一人で外出が困難な方は車いす利用の方だけではありません。  
ご自分の車で活動に参加できる方式（セダン方式）も採用して  
います。この機会にどうぞご参加ください。

ご自分が持っている力を社会に  
生かすチャンスです。ご一緒にま  
せんか？

**あじさい連絡所は、電話/FAXとも**

**042-759-7982 です。**

**連絡先**

〒252-0236 相模原市中央区富士見 6-1-20  
市立あじさい会館2階中央ボランティアセンター内  
電話/FAX 042(759)7982 (相模原ボランティア協会)

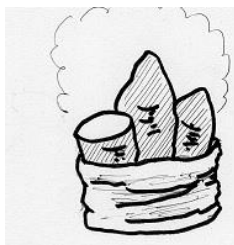
# 編集後記

☆このままでは秋が来ないのでほとんど不安でしたが、やはり来ました。いい季節であって欲しい。(西)

☆半年で20kgぐらい痩せましたが、担当医師はこれぐらいが丁度いいとのことです。(髭)

☆秋も深まり紅葉の季節になりましたが、塩害によりイチヨウの葉が枯れたり、リンゴの収穫があやぶまされたり、地球の温暖化も問題になっています。これからの地球はどうなるんでしょう！(和)

☆今年は夏から日本に接近・上陸する非常に発達した台風が多かったですね。(倉)



さがみはら ぼらんていあ情報誌 季刊

わくわく 2018秋号 (第43号)

2018年10月27日発行

編集人 小倉 義男  
西本 敬  
髭野 克己  
山本 和子  
高橋 功  
勝部 幸三

イラスト 鹿野 徹子

編集・発行・印刷：

特定非営利活動法人 相模原ボランティア協会  
広報委員会 わくわく部会

本誌に使用している用紙(表紙を除く)はイオングループから提供されたものです。

## 表紙の絵

障害者地域活動支援センター「ウッディショップきこり」の原芳明さんの作品です。夕焼けでしょうか？ 情熱の赤にカラフルなトンボです。「きこり」は木作業を中心に木のハガキ(動物や花)を制作しています。また、毎年メンバーの絵をカレンダーにして好評を博しています。



さがみはら ぼらんていあ情報誌 **わくわく** 2018年秋号（第43号 10月27日発行）  
発行：特定非営利活動法人 相模原ボランティア協会 広報委員会わくわく部会  
〒252-0236 相模原市中央区富士見6-1-20 あじさい会館中央ボランティアセンター内  
☎042-759-7982 URL <http://sagamiva.info/> e-mail: [sagamiva@feel.ocn.ne.jp](mailto:sagamiva@feel.ocn.ne.jp)